



鉾山の町・細倉の記憶をたどる

—寺崎英子が残した写真から—

2018年8月24日(金) 9:00～17:00



SMMA 見験楽学ツアー



【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 (せんだいメディアテーク内)

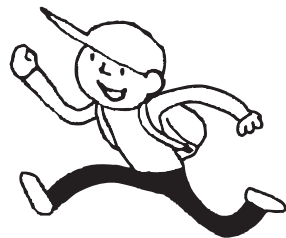
TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482

E-mail office@smt.city.sendai.jp

SMMA
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

持ち物リスト

- ◆歩きやすい靴・服装
- ◆飲みもの
- ◆雨具
- ◆筆記用具



注意事項

- ◆大きな声で話すなど、迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには、道幅の狭い歩道などもあります。周辺の環境に十分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。
- ◆当日の天候などにより、コース内容を変更したり、中止したりすることがあります。
ツアー参加中のけがや病気、事故などについては、保険の適用内とさせていただきます。

MEMO



MEMO



見験楽学ツアー 11

鉦山の町・細倉の記憶をたどる

ー寺崎英子が残した写真からー

宮城県北西部、奥羽山脈山麓の町・鶯沢にはかつて「細倉鉦山」という日本で
有数の鉦山があり、1987年の閉山まで日本の鉦業を支えていました。鶯沢地
区の住民だった寺崎英子は閉山発表後から、細倉地域の撮影を始め、変わり
ゆく町や人々の生活をカメラに収めていました。こうして寺崎が記録した写真は、
現在せんだいメディアテークの協働プロジェクトとしてアーカイブされています。
今回のツアーでは、鉦山跡地に建つ「細倉マインパーク」で細倉鉦山の歴史を
学んだ後に、寺崎が残した写真と現在の町の様子を見比べながら細倉の町を
散策し、最後にせんだいメディアテークの活動見学を通して鉦山の町・細倉の
記憶をたどります。

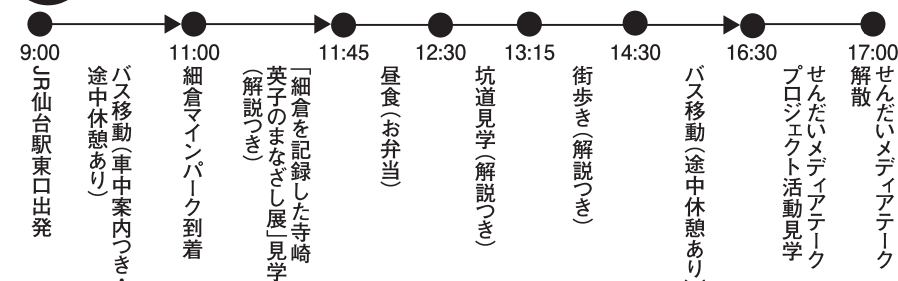
案内人 **田中 千秋** (せんだいメディアテーク 企画・活動支援室)

福島県会津若松市出身。専攻は美術教育。現在は、市民と協働して地
域文化のアーカイブをつくる「メディアスタディーズ」や東日本大震
災に関する草の根的なアーカイブ活動を行う「3がつ11にちをわす
れないためにセンター」を担当している。

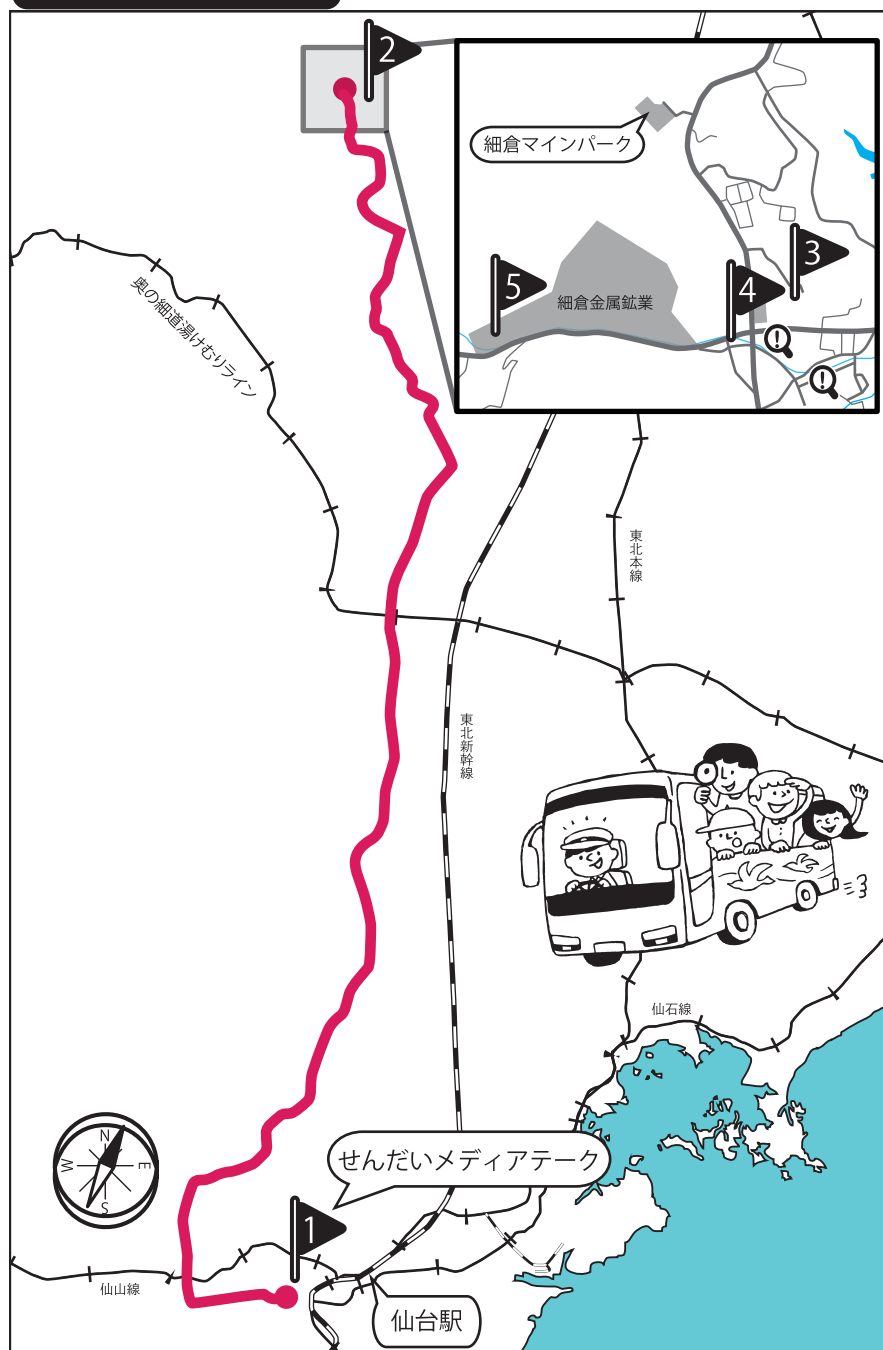
小岩 勉 (写真家/寺崎英子写真集刊行委員会)

1962年岩手県一関市生まれ。宮城教育大学卒。東北造船の労働運動な
どのドキュメンタリーを撮影後、原発のある女川を長期で取材。街と
生活を写真で記録する市民参加の出版活動を、仙台市や本吉町で続
ける。写真集に「女川海物語」など。東北芸術工科大学ほか非常勤講師。

コース



ルートマップ



せんだいメディアテーク 今後のイベント

◎3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター 「アーカイブ・クル大解剖」

「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」（通称わすれん！）では、東日本大震災の記録に興味をもってもらうきっかけとして、寄せられたデジタル記録を触れることができる道具や資料にしてみました。アーカイブ・クルは、それらを収納し閲覧することができる移動式の小さな資料室です。

会期：9 月 8 日（土）～10 月 28 日（日）9:00-22:00

※9 月 27 日（木）、10 月 25 日（木）は休館

会場：せんだいメディアテーク 7 階ラウンジ

観覧無料



◎細倉を記録した寺崎英子のまなざし展・カラー編（仮）

今年度新たに整理作業を行ったカラーネガを中心とした、プロジェクトの進捗報告展。モノクロとほぼ同時進行で撮影されていたカラー写真に込めた、寺崎のまなざしを紹介します。

会期：11 月 17 日（土）～12 月 27 日（木）9:00-22:00

※11 月 22 日（木）は休館日

会場：せんだいメディアテーク 7 階ラウンジ

観覧無料



仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)

仙台・宮城地域のさまざまな博物館が共通の知的資源として協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指して活動しています。



www.smma.jp

SMMA参加館

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



仙台の美学家・福島家3代が収集した作品約3000点を収蔵。伊達家旧蔵品、宮城県や福島家に縁のある作品を元に企画展を開催します。

仙台うみの杜水族館



豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽、海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

せんだい3.11メモリアル交流館



東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

スリーエム仙台市科学館



緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室のほか、岩石や植物の屋外展示もあります。

仙台市縄文の森広場



山田上ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

仙台市天文台



口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、天文展示室等を備えた総合天文博物館です。

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)



富沢遺跡から発見された2万年前の人間の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

仙台市博物館



伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関わる歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

セルコホーム ズーパラダイス八木山



世界各地に生息する約500点の動物たちを飼育・展示している東北最大の動物園です。

仙台市歴史民俗資料館



県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。

仙台文学館



明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。

せんだいメディアテーク



図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。

東北学院大学博物館



東北学院大学の歴史・文化に関する研究成果をもとに、様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担う。

東北大学総合学術博物館



大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。

東北大学史料館



東北大学の記録を保存・公開する日本初の施設で、大学の歴史や魯迅の展示などを行っています。登録有形文化財の建物も見所です。

東北大学植物園



東北大学が設立した自然植物園。仙台城築城後に引き継がれてきたモミの美林があり、天然記念物「青葉山」に指定されています。

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館



人間国宝(型絵染)で日本を代表する染色工芸家芹沢銈介の作品と、氏が収集した世界の工芸品を紹介しています。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。鉄道をテーマにした企画展と模型館を中心に広く一般の方にも大学をご利用いただけます。

見どころ

せんだいメディアテーク

「杜の都・仙台」を象徴する定禅寺通にある図書館・ギャラリー・シアターを備えた総合文化施設。美術や映像文化の活動拠点として、すべての人が様々なメディアを通じて自由に情報をやりとりできるようお手伝いしています。そのほか自主事業の展覧会や市民グループとの協働事業など、一年を通して様々な企画に取り組んでいます。本ツアー共催の「寺崎英子写真集刊行委員会」は、メディアを活用して地域の歴史や文化をデジタルアーカイブするプロジェクト「メディアスタディーズ」のうち「細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ」として活動しています。

【寺崎英子(1941-2016)】

旧満州生まれ。終戦後、鉾山の町として栄えていた宮城県鶯沢町細倉(現在の栗原市)に家族とともに移住し、家業で売店を営み生活していました。細倉鉾山の閉山が発表された直後から、カメラを手に細倉の町並みや人々の生活を撮影し始め、約13,000カットのネガを残しました。

【細倉を記録した寺崎英子のまなざし展】

「寺崎英子写真集刊行委員会」は寺崎から託された写真のアーカイブを進めています。この展示では、アーカイブ途中の約300点の写真と、寺崎のカメラや撮影ノートも紹介しています。2017年10月7日～12月26日までせんだいメディアテークで展示し、現在は細倉マインパークの展示資料室で巡回展示されています。



2 細倉鉱山 (806～876年発見/1987年閉山)

「有数の金属供給源として近代化に貢献した東北地方の鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、2007年11月に近代化産業遺産に認定されました。「近代化産業遺産」とは、近代化の発展を遂げるなかで「産業の近代化」に貢献した、地域の建造物・機械・文書などを国が認定するもの。栗原地域の産業・経済・文化の発展を支えてきた点が評価され、「細倉鉱山施設」として認定に至りました。

細倉鉱山は、主に鉛・亜鉛の産出地として日本で有数の鉱山でした。全盛期には1万人以上が暮らしていたこともあったほど栄えていましたが、鉱山閉山後には、住民の多くが細倉の地を離れました。現在、鉱山跡地には細倉鉱山1200年の歴史を伝えるテーマパーク「細倉マインパーク」が建てられています。

【細倉マインパーク】(1990年開園/2016年リニューアルオープン)

細倉鉱山の歴史を展示資料や坑道見学から学べる施設。資料展示室では、鉱山の歴史・文化の変遷を実際の資料から知ることができます。そのほか、現在では見られない細倉の町並みや生活風景を写真や映像でも紹介しています。資料展示室2階では、8月31日(金)まで「細倉を記録した寺崎英子のまなざし展」が開催されています。

そして坑道(全長777m)では、坑内事務所や作業現場など当時の作業風景を再現した展示があり、細倉鉱山の歴史を体感することができます。また、砂金取り体験や古酒蔵など坑道を活かしたコーナーもあります。



3 細倉マインパーク前駅跡

2007年まで開通していた「くりはら田園鉄道」の終着駅。1921年の開通当初は、登米市石越駅と栗原市沢辺駅を結んでいましたが、細倉マインパークの開園に伴い線路が延長され終着駅となりました。現在では、駅舎やホームが残されています。

4 寺崎英子住宅跡

道路の拡張に伴う移転前に、寺崎が住んでいた住居跡。この場所で撮影された多くの写真から、住居前が通学路に面するにぎやかな通り、裏は鉱山の工場に続く線路とボタ山であったことを教えてください。

5 細倉金属鉱業 総合事務所 (1934年建設)

三菱鉱業株式会社の運営が開始されるときに事務所棟として建設されました。その後、運営体制が何度か変わりますが、白い横板張りの洋風な建物は、代々事務所として使用され、現在でも建設当時の面影を感じることができます。

POINT

映画『東京タワー ～オカンとボクと、時々、オトン～』(監督:松岡錠司/公開:2007年)撮影地同作・主人公の少年時代は細倉で撮影されました。主人公の母親が働く食堂は、本ツアーで昼食を提供いただく「食事処 だるま屋」で、主人公が暮らす炭鉱住宅には「旧佐野住宅」が撮影地として選ばれました。「旧佐野住宅」は撮影終了後にオープンセットが一般公開され、多くの人が訪れましたが、度重なる地震の影響から2013年に解体されました。